日本経営学会
学会ニュース

NO.66
2024.11

JABA
Japan Academy of Business Administration
https://keiei-gakkai.jp/
〒162-0808　東京都新宿区天神町 78
jaba@keiei-gakkai.jp

2023年度 会員総会報告

日本経営学会第 98 回大会（2024）
於：中央大学多摩キャンパス

日本経営学会第 98 回大会は、2024 年 9 月 4 日 (水) から 9 月 7 日 (土) にかけて、中央大学多摩キャンパス にて開催されました。この大会の会員総会 (9 月 5 日) における 報告・審議事項は次の通りです。

[1] 会員総会における報告事項

1．会員の異動について

2023 年度の個人会員の異動は新入会員 95 名、復活会員 52 名、退会会員 113 名 (逝去 5 名、一身上の都合 52 名、自然退会 56 名) でした。その結果、本会の会員数は 1755 名 (北海道部会 73 名、東北部会 88 名、関東部会 794 名、中部部会 149 名、関西部会 505 名、九州部会 136 名、法人会員 10 名) となりました。

2．2023 年度学会賞について

2023 年度日本経営学会賞の受賞について発表されました。(p.4)

3．第 99 回大会の統一論題・プログラム案について

上林憲雄大会担当常任理事より、西南学院大学で、2025 年 9 月 2 日 (火) から 9 月 5 日 (金) まで開催されること、統一論題のメインテーマ「経営学のこれまでとこれから」、サブテーマ 1 「経営と人間」、サブテーマ 2 「経営と技術」、サブテーマ 3 「経営学研究の評価」について紹介されました。

4．第 99 回大会開催校挨拶

西南学院大学の藤岡豊会員より挨拶があり、西南学院大学のキャンパス案内、キャンパスまでの交通案内、開催までのスケジュール等が紹介されました。

5．国際委員会報告

原拓志国際担当常任理事より、IFSAM セッションのお礼、

Topics

● 2023年度会員総会報告
［1］会員総会における報告事項
［2］会員総会における審議事項
●特別会員・名誉会員・特別名誉会員の会費等の改定について
● 2023年度学会賞審査結果報告
受賞挨拶
●プログラム委員長挨拶
●広報委員会より
■活動報告
・学会誌編集状況
・2023年度部会開催状況
・国際活動状況
・関連団体の活動状況
■事務連絡
＜巻末資料＞
・第 99 回大会（2025）報告者募集

日本経営学会第 99 回大会（2025）

2025年9月2日(火)～9月5日(金)
於：西南学院大学

統一論題テーマ
「経営学のこれまでとこれから」
サブテーマ 1
「経営と人間」
サブテーマ 2
「経営と技術」
サブテーマ 3
「経営学研究の評価」

報告者募集については本ニュース巻末をご確認ください。最新情報は、学会ホームページ［大会案内］に随時情報公開されます。

IFSAM General Assembly Meeting での報告事項について説明がありました。

［2］会員総会における審議事項

1．2023 年度決算と監査報告について

2023 年度決算の理事会案および監査報告が承認されました。（巻末資料）

2．2024 年度予算について

2024年度予算の理事会案が承認されました。(巻末資料) なお、2023年度予算案に記載ミスがあったことが報告され、過年度の予算についても確認・修正したものを保管するとの説明がありました。

3．第 100 回大会の開催校について

第 100 回大会の開催校を早稲田大学に依頼するという理事会案が承認されました。開催校所属の藤田誠会員より挨拶がありました。

4．編集委員について

小沢貴史学会誌担当常任理事より、編集委員の候補選定方法について説明があり、2024 年 9 月から 2028 年 9 月までの編集委員の候補者 (東西 8 名ずつ、合計 16 名) について提案があり、承認されました。

5．100周年記念事業委員会について

出見世信之理事長より、100 周年記念事業委員会を設置すること、担当委員として百田義治顧問、出見世理事長、田淵泰男総務担当常任理事、上林憲雄総務担当常任理事、原国際担当常任理事が就任すること、適宜、担当委員を補充することについての説明があり、承認されました。

6．特別会員、名誉会員、特別名誉会員の会費等見直しについて

田淵総務担当常任理事より、特別会員、名誉会員、特別名誉会員の会費等見直しについて説明があり、承認されました。また、出見世理事長より、会員制度について今後も継続的に見直し・検討していくことが説明され、承認されました。

7．個人会員の入会資格の見直しについて

出見世理事長より、個人会員の入会資格の見直しについて説明があり、学会規則に関わる内規の改正であるため２年審議であること、次回の総会で審議されることが説明されました。

（注）改正箇所は下線部

現行	改正案
・一般会員（内規１　1)） 大学あるいはその他の研究機関で、大学卒業後、経営学（会計学、商学、経営情報学などを含む）を２年以上研究し、研究業績を有する研究者であること。	・一般会員（内規１　1)） 大学あるいはその他の研究機関で、大学卒業後、経営学（会計学、商学、経営情報学などを含む）を２年以上研究し、研究業績を有する研究者であること。<u>または、学士・修士一貫教育課程を修了し、研究業績を有する研究者であること。</u>
・準会員（内規 14　1)） 大学院の修士課程（大学院博士前期課程、専門職学位課程を含む）に在籍し、経営学（会計学、商学、経営情報学などを含む）の研究に従事する者であること。	・準会員（内規 14　1)） 大学院の修士課程（大学院博士前期課程、専門職学位課程、<u>または、学士・修士一貫教育課程</u>を含む）に在籍し、経営学（会計学、商学、経営情報学などを含む）の研究に従事する者であること。

特別会員・名誉会員・特別名誉会員の会費等の改定について

― ご所属先を退職される会員、すでに退職された会員の皆さまは特にご留意ください―

総務担当常任理事　田淵泰男

①会員歴 10 年以上、② 65 歳以上、③大学その他の研究機関に常勤として所属していない会員は、本人の申請にもとづき理事会承認を経て会員種別を一般会員から「特別会員・名誉会員・特別名誉会員」のいずれかに変更いただけます。この個人会員制度（2019 年創設）について、会費等を改定することが理事会及び会員総会で審議承認されました。

特別会員・名誉会員の会費は、一般会員と同額の 10,000 円（学会誌の印刷物頒布継続の場合に当分の間適用）から、6,000 円とすることになりました（引き続き学会誌の印刷物頒布を行います）。

特別会員・名誉会員は、「J-STAGE 利用会員」制（会費 4,000 円、学会誌の印刷物頒布なし）を選択できますが、これを選択した場合に「終身会費」制（10 年分の会費を一括前納した場合、以後の会費納入を免除）を会員歴にかかわらず選択できるようになりました。

特別名誉会員の会費も同じく 10,000 円でしたが、4,000 円とすることになり（学会誌の印刷物頒布を行い、J-STAGE 利用会員制の選択適用終了）、終身会費制も選択できます。

以上の改定内容につきましては、下表をご参照ください。

（注）J-STAGE 利用会員制及び終身会費制は、会員種別の変更時または変更後、任意に選択できます。

「シニア会員」（2019 年募集終了）も、特別会員・名誉会員・特別名誉会員に変更いただけ、その変更後に J-STAGE 利用会員制及び終身会費制を選択できます。

●特別会員・名誉会員・特別名誉会員の会費等に係る事項

会員種別	要件	会費 （学会誌印刷物頒布あり）	会費 （学会誌印刷物頒布なし）注	終身会費
特別会員	会員歴 10 年以上	6,000 円	4,000 円	選択可
名誉会員	会員歴 20 年以上	6,000 円	4,000 円	選択可
特別名誉会員	会員歴 30 年以上かつ 常任理事 2 期以上経験者	4,000 円		選択可

注　J-STAGE 利用会員制を選択した場合、「学会誌印刷物頒布なし」となります。

一般会員から特別会員・名誉会員・特別名誉会員への変更は、本学会ホームページの「変更申請」（トップページ）により手続きを行ってください。

「シニア会員」から特別会員・名誉会員・特別名誉会員へ変更する場合も、同じく「変更申請」により手続きを行ってください。

会員種別ならびに会費の変更申請につきましては、学会 HP での掲載ならびに学会からの ML にて近々に改めてお知らせを差し上げます。

本件に係る本学会「内規」12 が一部改正されましたので、下記にて新旧対照表をお示しします。

●新旧対照表（日本経営学会内規 12 の一部改正）

（注）改正箇所は下線部

旧	新
6）特別会員等は、10,000円（現行）会費制の他、4,000 円会費制が選択できる。ただし、4,000 円会費制を選択した場合、学会誌の印刷物頒布は行わず、J-STAGE を利用するものとし、その掲載の都度通知することとする。なお、特別名誉会員には「経営学論集」に限り印刷物を頒布する。 7）特別会員等が、4,000 円会費制を選択し、かつ、10 年分の会費を一括して前納した場合、終身会費として扱い、以後の会費の納入を免除する。ただし、特別会員は、会員歴が 15 年以上の場合に限り、終身会費制を選択できるものとする。	6）特別会員等は、6,000 円会費制の他、4,000 円会費制が選択できる。ただし、4,000 円会費制を選択した場合、学会誌の印刷物頒布は行わず、J-STAGE を利用するものとし、その掲載の都度通知することとする。なお、特別名誉会員には「学会誌」の印刷物を頒布する。 7）特別会員等が、4,000 円会費制を選択し、かつ、10 年分の会費を一括して前納した場合、終身会費として扱い、以後の会費の納入を免除する。（ただし書きを削除）

2023 年度日本経営学会賞審査結果報告

日本経営学会賞

日本経営学会賞審査委員会　審査委員長　鈴木由紀子

今年度の日本経営学会賞は、著書・論文部門のそれぞれについて、会員の年齢制限のない学会賞（本賞）と 45 歳以下の会員を対象にした学会賞（研究奨励賞）の 4 部門において審査を実施いたしました。学会賞審査委員会は 1 名の審査委員長（鈴木由紀子）と 2 名の副委員長（東日本：長山宗広、西日本：芳澤輝泰）、副委員長を含めた東日本・西日本、それぞれ 10 名の委員から構成されました。著書部門と論文部門の審査組織は個別に組織され、東日本・西日本から各 5 名ずつ選出された審査委員と審査委員長の計 11 名で構成され、審査業務に当たりました。今回、著書部門、論文部門において審査を行った委員は次の通りです。

〔東日本〕
加藤俊彦、加藤寛之、國島弘行、關智一、高井文子、高井透、長山宗広、西村友幸、藤田誠、渡部直樹
〔西日本〕
小沢貴史、齋藤敦、林徹、福永文美夫、水野由香里、森田雅也、山縣正幸、横山恵子、芳澤輝泰、米田邦彦

審査委員会は所定の審査期間において 2 段階の丁寧かつ厳正な審査を実施いたしました。その結果、著書部門につきましては、11 冊の応募がありましたが、学会賞（本賞）ならびに学会賞（研究奨励賞）につきましては該当作なしという結果になりました。

一方、論文部門に関しては、2023 年 1 月～ 12 月に刊行された『日本経営学会誌』第 52 号に掲載された論文について審査を行い、髙橋宏承会員の論文「組織構成員の外向性と組織内孤立の関係性」（『日本経営学会誌』第 52 号掲載）が学会賞（研究奨励賞）に選定されました。尚、学会賞（本賞）につきましては該当作なしという結果になりました。

上記の結果は、常任理事会・理事会の承認を経て開催されました第 98 回大会の会員総会（2024 年 9 月 5 日、中央大学）において発表され、受賞者に表彰状と表彰楯が出見世信之理事長より贈呈されました。また、「学会賞セッション」（9 月 7 日）において、審査委員長から受賞者と受賞作品が紹介された後、受賞者による記念講演が行われました。

審査委員各位には審査業務に多大なご尽力を賜りましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2023 年度日本経営学会賞「論文部門」受賞挨拶

髙橋宏承（千葉大学）

この度は日本経営学会賞（論文部門）研究奨励賞に選出いただきまして、誠にありがとうございます。審査委員長の鈴木由紀子先生をはじめ、委員の先生方や査読を担当してくださった匿名のレフェリー 2 名の先生方、そして学会賞セッションにてお世話になった出見世信之理事長には、心より感謝申し上げます。

本研究は、既存研究で主に注目されている孤独感ではなく、より客観的な状態を表す孤立概念に着目し、組織構成員の外向性と孤立の関係性を明らかにしようと試みたものです。組織内での孤立は個人の多様な成果に影響を及ぼしますが、孤独感の研究と比べて十分に研究が蓄積されていませんでした。また、特に重要な先行要因として考えられる外向性との関係も明らかになっていないという課題が残されていました。これは、孤立という客観的な状態をデータとしてとらえることの困難性の問題に由来する部分があります。本研究ではネットワーク論の視座からマルチエージェント・シミュレーションの手法を活用し、データを収集・分析することで、その問題の克服に挑戦しまし

た。本研究で得られた結果の一つは、外向性の高い組織構成員の方が孤立しやすいというものです。これは外向性に関連するコミットメントやコミュニケーション相手の多様性が関与していると解釈できます。一般的に、外向性の高い人は孤独感を感じにくく、孤立しにくいと認識されていますが、むしろ外向性の高い構成員に対して組織は特に注意を払う必要があることが本研究の結果から示唆されます。

今後、孤立研究をさらに発展させるために、外向性以外の個人特性や職務・組織特性を先行要因とした研究が期待されます。また、方法論的には、他のデータとシミュレーション・データを組み合わせ、より発展的な分析を試みることも考えられます。AI の導入やリモートワークの普及によって、今後さらに重要なテーマとなると考えられる孤立研究において、本研究がその一助になれば幸いです。

最後に、学生時代から指導いただいている沼上幹先生や島貫智行先生、学内外の研究会などでアドバイスをくださった皆様に、この場を借りて改めて深く感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も研究に一層精進してまいります。誠にありがとうございました。

日本経営学会第 98 回大会を終えて

第 98 回大会プログラム委員長　井上善海

日本経営学会第 98 回大会は、2024 年 9 月 4 日（水）から 9 月 7 日（土）まで、中央大学多摩キャンパスを会場に開催された。台風の影響も懸念されたが、約 450 名の参加者を得て盛会のうちに終えることができた。

2020 年開催の第 94 回大会以来、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の影響によりオンライン開催を余儀なくされ、第 97 回大会で対面形式に戻せたものの懇親会はまだ開催できなかったが、今回 5 年ぶりに懇親会まで含めたフル対面開催ができた。懇親会の場では、往年の日本経営学会の活気を思い出したとの参加者の声もあった。

今大会の統一論題のテーマは、「経営学の前提を問い直す」であった。1980 年代から今日まで、日本を中心に企業経営に対して何が起こったかを回顧をし、さらに、今後の企業経営を展望するというのが今回の統一論題の趣旨である。1980 年代の頃、日本経営学会で議論され、あるいはその後も続くであろうと思われたトレンド、このような議論や想定されたトレンドの背後にある「前提」を問い直してみることを狙ったものである。

サブテーマは、①国際経営の回顧と展望、②変化する多様な現実を捉える実践的な研究方法を探る、③経営と社会の関係についての過去・現在・未来の 3 つのテーマが設定された。第 95 回大会より、統一論題の報告者に統一論題の趣旨を理解していただくための「事前研究会」が開催されてきたが、本大会でも事前に開催したことで、統一感のある議論ができた。統一論題にご登壇いただいた報告者、司会者、討論者の先生方には心より感謝申し上げたい。

また、本大会では、日本経営学会の国際委員会が中心となり、世界の経営学会連合である IFSAM と連携し、海外の経営学者との間でオンラインによる国際セッションも開催された。さらに、 3 つのワークショップ、69 の自由論題報告が行われ、各会場とも多数の参加者があり、活発な議論が交わされた。大会最終日には、学会賞セッションが開催されたが、最後まで多数の会員が残られ盛り上げていただいた。この場を借りて、参加会員諸氏に厚く御礼を申し上げたい。

最後になったが、開催校として大会運営にあたられた実行委員長の咲川孝先生、木村有里先生をはじめとする実行委員会の先生方、学生スタッフの皆様には、すばらしい議論の場を準備し提供していただいた。参加者を代表して心より御礼を申し上げたい。

広報委員会より

広報担当常任理事　松田　健

●メーリングリスト【JABA-ML】登録のお願い

現在、日本経営学会ではメーリングリスト（JABA-ML）を用いて、学会ニュースや部会開催情報などを配信しております。 まだメーリングリストにご登録いただいていない会員各位には、ぜひ学会ホームページよりご登録いただきますようお願いいたします。

また、宛先不明で返ってきてしまうメールも多々ございます。ご登録されているメールアドレスの変更希望、あるいはご所属変更などでメールアドレスを変更されておられましたら、学会ホームページの「変更申請」よりご連絡下さい。引き続き JABA-ML による学会情報の適時・的確な発信にご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願いいたします。

●ホームページ会員の新刊書籍紹介の募集

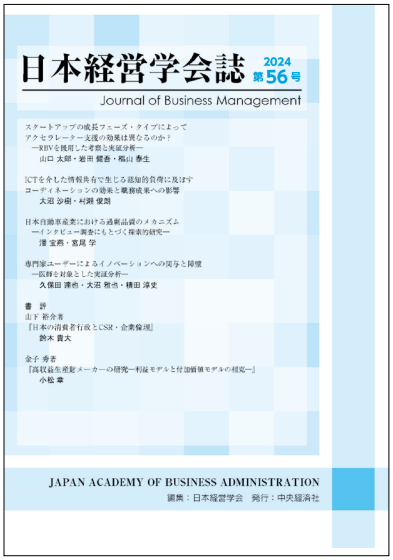
学会ホームページでは、書籍の編著者である会員ご本人からの希望に基づいて出版後 1 年以内の書籍の紹介を掲載しております。書籍紹介を希望される会員におかれましては、編著者名、書籍名、出版社、発売日、ISBN、定価（税抜）、また必要があれば 200 字程度の紹介文を学会事務所までメールにてお送り下さい。掲載期間は、掲載後 1 年間とします。

なお、紹介文に不適切な表現がある場合には、修正をお願いする場合や掲載をお断りする場合があります。 学会ホームページの充実にご協力賜りますよう、何卒宜しくお願いいたします。

活動報告

学会誌編集状況

学会誌編集委員会 委員長　馬塲 杉夫



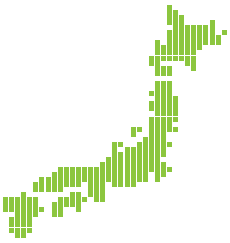
まずは学会誌の編集状況を、お知らせいたします。2023 年の総投稿数は 27 本（前年比 - 1 本）、採択数は 6 本（前年比 - 3 本）、採択率は 22.2%（前年比 - 8.9%）、平均審査日数 155 日（前年比 +2 日）となっております。担当した編集委員会の東西の内訳は、東日本 9 本、西日本 18 本となります。2024 年のこれまで（2024 年 10 月中旬）の総投稿数は 21 本で採択数は 2 本です。採否と取り下げからなる投稿論文の平均審査日数は、123 日となっています。審査中論文が 5 本あります。

続いて学会誌刊行状況を、お知らせいたします。投稿論文号である第 57 号（論文 4 本、書評 2 本）の入稿が終わったところです。経営学論集 95 集となる第 58 号を予定している原稿が集められております。2023 年以降の刊行年月は、次の通りです。第 52 号：2023 年 6 月、第 53 号：2023 年 7 月（経営学論集第 93 集）、第 54 号：2024 年 1 月、第 55 号：2024 年 8 月（経営学論集第 94 集）、第 56 号：2024 年 8 月、第 57 号：2025 年予定。

学会ニュースの場をお借りして、投稿論文の審査を担当頂いた編集委員、及び厳正な審査をして頂いた査読者の先生方に、厚くお礼を申し上げます。会員の皆様には、学会誌に積極的に投稿して頂きたくお願い申し上げます。その際には、学会員であるとともに、当該年度の学会費をお支払い済みであること、及び投稿規定と執筆要領に従ったご投稿をお願いします。

2023年度部会開催状況

総務担当常任理事　田淵泰男　上林憲雄



北海道部会では、2023 年 12 月 9 日（小樽商科大学）に工業経営研究学会北海道部会と共同開催にて、2024 年 4 月 20 日（北海学園大学）に経営哲学学会北海道部会及び日本生産管理学会北海道・東北支部と共同開催にて、7 月 8 日に幕別町百年記念ホールにてそれぞれ例会を開催いたしました。

東北部会では、2024 年 1 月 20 日（弘前大学）、6 月 22 日（会津大学）に主催校による対面と Zoom のハイブリッド形式で例会を開催いたしました。

関東部会では、2023 年 10 月 21 日（駒澤大学）、11 月 25 日（専修大学）、2024 年 3 月 30 日（横浜市立大学）、4 月 27 日（日本大学商学部）、5 月 25 日（文教大学）、7 月 27 日（法政大学）にそれぞれ例会を開催いたしました。関東部会シンポジウムは、2023 年 12 月 23 日（明治大学）にテーマを「サステナビリティ時代の企業と投資家のエンゲージメント」として、2024 年 6 月 29 日（早稲田大学）にテーマを「退出か、躍進か：ビッグデータ・アンケート調査から見る日本企業のダイナミズム」として開催いたしました。今後は、2024 年 10 月 26 日（駒澤大学）、11 月 30 日（日本大学法学部）、2025 年 3 月 30 日（横浜市立大学）、4 月 26 日（日本大学商学部）、5 月（文京学院大学）、7 月（専修大学）にそれぞれ例会の開催を予定しております。今後、シンポジウムは、2023 年 12 月 21 日（明治大学）、2024 年 6 月（慶應義塾大学）に開催を予定しております。

中部部会では、2024 年 3 月 2 日に組織学会中部支部と合同で例会を開催いたしました。今後は 11 月 30 日に愛知学院大学での開催を予定しています。

関西部会では、2024 年 1 月 6 日（大阪公立大学文化交流センター）、4 月 20 日（同志社大学）、5 月 25 日（近畿大学）、6 月 15 日（神戸学院大学）、7 月 13 日（キャンパスプラザ京都）、10 月 19 日（龍谷大学）にそれぞれ例会を開催いたしました。今後は、11 月 16 日（関西学院大学）、12 月 7 日（福井県立大学）、2025 年 1 月 11 日（大阪公立大学文化交流センター）に開催を予定しております。

九州部会では、部会事務局主管 Zoom ハイブリッドによる例会の開催を継続しています。これまで、2023 年 12 月 9 日（下関市民会館）、2024 年 2 月 10 日（西南学院大学）、4 月 13 日（小値賀町離島開発総合センター）に例会を開催いたしました。今後は、12 月 14 日（下関市生涯学習プラザ）、2025 年 2 月 8 日（プロム佐世保）、4 月 12 日（西南学院大学）に、それぞれ例会の開催を予定しています。

国際活動状況

国際委員会委員長　原　拓志

9 月 5 日、第 98 回大会において、JABA-IFSAM International Collaborative Session をオンライン併用で開催いたしました。The Current Issues and Challenges of Management Associations in the Modern Era をテーマとし、Sandro Castaldo IFSAM 会長および Kerry Brown ANZAM 元会長、出見世理事長が登壇し、IFSAM や ANZAM、日本経営学会の現状や課題について報告されました。日野健太理事の司会のもと、討論者の瓜生原葉子会員や亀岡京子会員も参加して、国際的な学術交流や若手研究者の育成法についての意見交換がなされました。Castaldo 会長からは来年の SIMA 大会での共同イベントも提案されました。1 時間のセッションでしたが多くの参加者を得て有意義なイベントとなりました。多大なサポートをいただいた咲川孝大会実行委員長をはじめ中央大学の皆様にお礼申し上げます。

6 月 19 日に IFSAM 総会が開催され、原国際担当常任理事が参加しました。2023 ～ 2025 年度の戦略計画としてはベストプラクティスの共有が第一優先となりました。また、日野理事が

IFSAM アワード委員会の委員に選出されました。

9 月 25 日～ 27 日に、1 年おきに開催される IFSAM 世界大会がオンラインで開催され、４つの円卓会議が持たれました。日本経営学会員もオーディエンスとして参加しました。

関連団体の活動状況

経営関連学会協議会

経営関連学会協議会評議員　出見世信之　木村有里

2024 年 6 月 11 日に明治大学で理事会、評議員会が開催されました。理事会では、決算、予算の審議の他、今期理事会での担当役員の選出、事業活動について議論されました。また、評議員会では、今期の体制について紹介された他、野口晃弘氏（日本学術会議経営学委員会委員長・南山大学）より、「日本学術学会の現状と経営学委員会の体制」についてお話しいただき、日本学術会議の状況について確認しました。

経営関連学会協議会のホームページには、こうした活動状況の紹介に加え、ジャーナルの最新版やニューズレターも公開されておりますので、ぜひ、ご覧下さい。

日本経済学会連合

日本経済学会連合評議員　馬場杉夫　三和裕美子

2024 年 5 月 30 日に第 1 回理事会・評議員会がオンラインで開催されました。2024 年度英文年報寄稿学会紹介、国際会議派遣補助申請、学会会合費補助申請、外国人学者招聘滞日補助申請、エコノミクス・ビジネスフォーラムの経過報告がなされました。また、2023 年度の会計・監査報告および、2024 年度予算案について協議し、承認されました。

Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences
人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会　GEAHSS（ギース）

GEAHSS 担当　鈴木由紀子

GEAHSS 第 7 期運営委員会第 2 回（通算第 12 回）が、2024 年 9 月 16 日（月祝）13:00 ～ 15:00 に Zoom によるオンライン開催されました。詳細については、GEAHSS ホームページをご参照ください。

事務連絡

年会費納付方法のご案内

2024年度年会費のご請求を開始しております。年会費はオンライン決済等も対応しております。郵便料金も値上げになりましたので、電子発行等にご協力いただければ幸いです。年会費請求方法変更は、ホームページ［変更申請］よりご連絡をお願いいたします。

種別	納入方法	手数料	領収書
電子発行	銀行振込 経理部署でのご対応、ATM、インターネットバンキングご利用など	振込人	申請
払込取扱票	郵便局窓口または郵便局設置の ATM にて払込	学会	半券部分
PayPal 決済	オンライン決済代行サービスの利用 クレジットカード決済、定期請求	学会	PayPal 受領書

銀行振込　ゆうちょ銀行　〇一九店　当座　００７５１７５　ニホンケイエイガツカイ

郵便振替　００１５０－１－７５１７５　日本経営学会

変更申請のお願い

所属機関やメールアドレス、年会費請求方法のご希望などに変更がある場合にはホームページの［変更申請］よりご連絡ください。

変更申請

日本経営学会事務所
〒 162-0808　東京都新宿区天神町 78
✉ jaba@keiei-gakkai.jp　☎ 03-3235-0200

日本経営学会 第99回大会（2025）報告者募集

最新情報は、日本経営学会ホームページ［大会案内］を更新しますので、ご確認ください。

自由論題報告者募集（ＣＦＰ方式）

各部会推薦により自由論題報告者を決定する方式とは別に、各会員の自発的応募によりプログラム委員会が自由論題報告者を審査選考する方式を採用しています（コールフォーペーパー：CFP 方式）。**この CFP 方式では、会員の種別を問わず、共同報告の場合には、申し込み時点で全員が会員であることが必要です。自らが他の学会で報告した研究と同じ内容を重複して報告することはできません。**英語セッションは設けておりませんが、自由論題報告を英語でしていただくことは可能です。これらの点を踏まえたうえで、ふるってご応募ください。

とりわけ大学院生セッションでの報告に対しては、本学会の理事、幹事が複数参加して、『日本経営学会誌』への掲載が近いと思われる報告者を、後日ペーパー・デベロップメント・セッションへ推薦することになります。報告者の研究を深めることを意図しておりますので、大学院生会員はふるってご応募ください。

1）報告者の設定人数　計 35 名程度（①一般会員 20 名程度　②大学院生会員 15 名程度）（新規の方を優先します）

2）報告討論時間　①一般会員セッション：報告 25 分＋質疑 15 分　計 40 分
②大学院生セッション：報告 20 分＋質疑 20 分　計 40 分

大学院生セッションでの報告に対する質疑には、報告者の研究を深める助言が含まれます。ただし、会場設定の都合等を考慮して、 大学院生会員の中から一般会員枠での発表に変更される可能性があることを予めご了解ください。変更を報告者にお願いする場合には、プログラム委員会から事前にご連絡をさしあげます。

3）応募締切り　2025 年 5 月 7 日（水）

4）応募申込方法　2025 年 2 月 1 日より大会ホームページ内受付システムからご応募ください。
①報告者全員の氏名（申し込み時点で全員が会員であることが必要です）、②報告者全員の所属（現職・職位）、③報告者全員のメールアドレス、④報告タイトル、⑤報告要旨（問題意識・論点・視点・主たる知見等、1,200 文字以内）、⑥大学院生セッションでの報告希望有無を「A4 サイズ用紙 1 枚」に明記して、ご提出ください。提出するファイルは、マイクロソフト・ワードか PDF に限ります。提出したら受領確認のメールをご確認ください。

5）諾否審査の通知　プログラム委員会にて審査・選考し、5 月末日までに決定し、メールにて通知いたします。

6）報告要旨集原稿の締切りと提出方法
①締切り　2025 年 7 月上旬（報告確定者には日時を別途通知いたします）
②提出方法　報告要旨集の原稿は、大会ホームページ内受付システムよりご提出ください。
許諾の通知から原稿提出の締切りまで短期間であることをご理解のうえ、ご応募ください。

ワークショップの報告者募集

1）設定件数　3 件程度

2）応募締切り　2025 年 5 月 7 日（水）

3）応募申込方法　2025 年 2 月 1 日より大会ホームページ内受付システムからご応募ください。
①報告者全員の氏名（申し込み時点で全員が会員であることが必要です）、②報告者全員の所属（現職・職位）、③報告者全員のメールアドレス、④報告タイトル、⑤報告要旨（問題意識・論点・視点・主たる知見等、1,200 文字以内）を「A4 サイズ用紙 1 枚」に明記して、ご提出ください。提出するファイルは、マイクロソフト･ワードか PDF に限ります。提出したら受領確認のメールをご確認ください。

4）諾否審査の通知　プログラム委員会において審査・選考し、5 月末日までに決定し、メールにて通知いたします。

ペーパー展示会の参加募集

論文の抜刷やワーキング・ペーパーによる大会参加を募集します。会員が事前に掲示希望を届け出れば、論文の抜刷やワーキング・ペーパーを自由に持ち込んで掲示・配布することができます。設定件数に制限はありませんが、会場設営等の都合もありますので、希望者は 2025 年 6 月 25 日（水）までに下記の専用メールアドレスへお申し込みください。

各種申込先・問合せ先

日本経営学会第 99 回大会（2025）実行委員会

専用メールアドレス：jaba99th2025@gmail.com

日本経営学会第 99 回大会実行委員長　藤岡　豊